

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制課程 普通科
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	多読・多聴活動における語数の増加 英語学力調査のスコアの向上（平成29年度に平均440以上、グレード5以上の生徒数30名以上）
計画名	「英語多読・多聴ステーション」を核にした英語力向上プロジェクト ・・・中堅校における生徒の英語力向上、教員の授業力向上、英語指導方法のモデル的改革をめざして

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 学力向上と進路実現 (1) イ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。 (3) 生徒の進路希望を実現させる。 ア 授業の充実の他、講習・ガイダンスの充実等をはかるとともに、25年度より導入した英語学力調査を指標として、入試結果の実績維持・伸長をめざす。
事業目標	1 生徒 ・授業内・授業外における英語力のアップ ・英語を英語のまま理解できる基礎力づくり ・卒業までに30万語読破を目標とし、日常的に英語を読むことへの動機付けをすることで、自律学習へ導き、英語運用能力の向上をめざす。 2 教員 ・多読多聴を取り入れた授業力の向上と、多読多聴の外部への普及展開を図る。 以上を目標に、授業内においては展開教室と図書室、授業外においては図書室を「多読ステーション」として位置づけ、生徒に多読環境を与える。また教員の授業力向上をめざし、「多読ステーション」を中心とした講習会等を開催する。さらにこの成果を踏まえ、他の府立高校や周辺小中学校等の英語の教員や指導者への普及を図る。
整備した 設備・物品	多読図書 1,996冊、朗読用 CD23枚、ラック 6台、ボックスファイル 32個、ポータブルCDプレーヤー 10台、充電器セット 5台
取組みの 主担・実施者	・英語担当者 ・図書担当者 ・教職員・PTA等有志
本年度の 取組内容	* 1・2年全クラス（17クラス）、3年1クラス計18クラスにおいて授業内で週1回20分間多読活動を実施。CDプレーヤー、音声CDを利用して聴き読みも同時に実施（多聴活動）。生徒各自による読書記録をつける。 毎学期ブックレポートを作成。 * 講習等での生徒への貸し出し、授業外での希望生徒による多読 * 保護者向け「英語多読を楽しむ会」3回実施。 * 多読に関する講演会の実施。多読実践校への訪問、調査・研究。
成果の検証方法 と評価指標	①GTECのスコアの伸び（各学年平均が1年推移で15ポイント以上の伸び） ②総語数の伸び（経年の比較で1人平均1万語増） ③読書速度と理解度の向上（1回20分あたりの読書語数の2割増） ④講習会等の外部発信回数と参加者数の推移
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①GTEC（2回実施）トータルスコア 1年346.0→381.9 2年354.3→395.8 リーディング 1年125.5→136.2 2年130.1→147.7 リスニング 1年129.3→139.3 2年132.7→146.9 ライティング 1年91.2→106.1 2年91.5→100.8 多読活動を取り入れることで、大量のインプットを行う機会を持つことにより、理解だけではなくライティングの向上にもつながっていると考えられる。（○） ②本年度の読書総語数は平均1年17,997語 2年30,063語 3年26,376語となっている。3年は授業時数が5回程度少なくなっており、同数程度あれば35,000～36,000語程度の読書語数となると考えられる。1冊あたりの語数平均1年209語 2年680語 3年812語 1年は当初は1冊あたりの語数が少ないため、1冊の語数平均が少なくなっている。2・3年では多読活動をする生徒も多くなり、本によっては音声の速さや効果音なども違うため、語数としては増えなかった生徒もいる。3年での実施は1クラスのみとなったが、2年経験したあとの多読活動は非常に重要であったと確信する。聴き読みにも積極的であった。2～3年では選書に迷う生徒もみられ、そういう生徒には教員側から積極的に各生徒にあった本を勧めることが必要である。3年間での総語数は10万程度となり、語数を伸ばすためには授業外で読む機会を持たせる方が課題と思われる。（△） ③各学年ほぼ同数の授業回数において読書総語数が増加していることから、読書速度は徐々に伸びてきていると考えられる。また①のGTECスコアのリーディング、リスニングのスコアの変化から、理解度も上がってきていると考えられる。今後も全体的に読書量・時間の増加に向けての取り組みが重要である。（○） ④保護者向け「英語多読を楽しむ会」に保護者10名の参加があり、多読、多聴、読み聞かせ体験を行った。校内において外部から講師を招き多読に関するワークショップを実施した（12月6日）。他の府立・私立高校から21名の参加があり、ワークショップを通して多読に関する理解を深め、情報交換をすることができた。（◎）
次年度に向けて	* 授業における多読活動を本年度よりもさらに充実したものにする。 * 授業外での読書機会を生徒が持ちやすくなる仕組みを検討する。具体的には貸し出しのシステムを構築して週末の本の貸し出しを柔軟に行なえるようにする。また、授業外での読書会、長期休暇中の集中多読会等の実施を検討する。 * 本のレベルをあまり上げずに易しい本を多量に読むよう勧め、結果として読んだ語数を伸ばせるようにする。そのためにも、蔵書から適切な本を選べるレイアウトを検討する。また、シリーズごとにリストを作り、シリーズを読みきる達成感を味わえる環境を整える。 * 音声とともに読む「聴き読み」を積極的に授業で紹介し、一定のスピードで読み続けることに抵抗を少なくする。 * 生徒が読んだ本の感想なども利用して多読本の紹介を定期的に行ない、授業内多読を活発にするとともに、貸出し数を伸ばす。 * 多読に関する講演会（ワークショップ）を実施し、効果的な多読活動についての教員自身が理解を深め多読に興味・関心を持つ教員を増やす。